

2022年度  
学校だより  
第2号

# こころ

牛久第一中学校  
令和4年4月22日  
文責 校長 本橋和久

## 第61回入学式を挙行了しました！ ～ 令和4年4月8日（金）

4月8日（金）に第61回入学式を挙行了しました。春の暖かな晴天のもと、保護者の皆様の見守り中、厳粛かつ和やかな入学式になりました。148名の新入生は、新しい制服に身を包み、学級担任の先導で式場に入ってきました。小学校での6年間を終えた生徒たちですから、式中の姿勢や礼儀作法は流石に立派でした。在校生代表の山城拓己さんの歓迎の言葉を受けて、新入生代表の雑賀紫音さんが新入生誓いの言葉を述べました。教科書は福田絢さんが新入生を代表して受け取りました。本校の全校生徒はこれで412名になりました。これからの学校生活が楽しみです。



暖かな春の日差しと心地よい風が感じられるこの良き日に、牛久第一中学校の一員となる新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、皆さんはどのような思いを抱いているのでしょうか。新しい出会い、新しい環境に対する緊張や不安もあると思います。しかし、そのような思いもあつという間に吹き飛ばすほどの楽しい行事や学校生活が待っています。例えば、学年を越えて「賢明・協和・剛健」の三団に分かれて競い合う体育祭では、応援合戦が、私にとってかけがえのない思い出となっています。また、美しいハーモニーをホールに響かせる合唱コンクールでは、自分達の理想とする合唱を目指してグラスで一致団結する経験を得ることができました。新入生の皆さんも、私達のように充実した日々を得られることでしょう。しかし、中学校生活を送る中で、学習面や生活面で壁にぶつかることもあるかもしれません。そんな時は、あなたの周りにいる人を頼ってみてください。友達や先輩、先生方は、あなたに寄り添い、悩みを解決へと導いてくれるでしょう。そして、もしあなたの周りでだれかが困っているようなことがあれば、同じように手を差し伸べてあげてください。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」この言葉を胸に、私達と一緒に楽しい学校生活を送っていきましょう。最後に、みなさんがよりよい学校生活を送れることを願って、歓迎の言葉とさせていただきます。

令和四年四月八日 第六十一代生徒会副会長 山城 拓己

### 誓いの言葉

春爛漫、心地良い風と色とりどりの草花に囲まれたこの良き日に、私達は牛久第一中学校入学という新たな一歩を踏み出しました。コロナ禍の折、未だ様々な制限を受ける中、本日はこのような素晴らしい式を挙行して下さった皆様に深く感謝申し上げます。新しい制服、新しい仲間、これから始まる中学校生活、そしてそこから生まれる新しい出来事を想像すると、多少の不安はありますが、期待や嬉しさで心が一杯になります。

さて、私が中学校生活の中で特に意識したいことは二つあります。「当たり前だと思っている日々の生活が、本当に当たり前なのか」ということ、そして「自分の目標に向かって今できることは何か」ということです。世界に目を向ければ、戦争に苦しむ人がいます。日本でも自然災害などに心を痛めている人がいます。そのような中で、自分にできることを探して実践しているのか、他者を思いやって生活できているのかを考えながら、なりたい自分に向かって一歩ずつ成長していきたいと思えます。

時に乗り越えるのに困難な壁にぶつかり、上手くいかず、自信を失うこともあるでしょう。そのような時には、信頼する仲間や先生方、家族の力を借りて少しずつ前進していきたいと思えます。

三年後、充実したより多き中学校生活だったと言えるよう、仲間たちと共に楽しく、真剣に、何事にも全力で取り組んでいくことを誓います。皆様、宜しくお願いたします。

令和四年四月八日 新入生代表 雑賀 紫音

## 入学式準備で新入生へのリスペクトを～令和4年4月7日（木）

入学式の前日には、2・3年生が式場周辺の清掃、式場に飾る花のプランター運び、体育館の床の雑巾がけ、椅子並べ、1年生教室の飾り付けなどを熱心に行いました。この活動には、在校生全員から新入生へのリスペクトと歓迎の気持ちが込められています。

今回の式場準備で2・3年生が示してくれた仕事ぶりに、私は心から感動しました。このような営みは本校の「学校文化」のひとつとして、いつまでも後輩たちに伝えていきたいと思えます。3月の卒業式には1・2年生が3年生へのリスペクトと感謝の気持ちを伝える番です。そのためにも、日常の清掃でも丁寧な仕事を心がけ、きれいな環境を保持していきましょう。



式場の外では2年生がプランターや鉢の用意、中では3年生が完璧な式場準備